

地域おこし協力隊の活動日記

飛騨市内で活動している地域おこし協力隊員
市内に存在するさまざまな地域資源を活用し、地域の特色を活かした産業の創出を図ります



地域の資源を活用したもののづくり
隊員 前原 融

飛騨市の皆様、こんにちは！

山之村で過ごす初の冬にびっくりしながらも、なんだかんだと楽しくやらせて頂いております、地域おこし協力隊の前原です！

さて、前々回の自分の記事でもご説明しましたが、秋・春以外はわらび粉オフシーズンです。今回は冬の山之村で、私がどんな活動をさせていた

ているかをご紹介します。

まずは雪下ろし。群馬県の雪が少ない地域で生まれ育った私には雪かき（雪またじ）や屋根からの雪下ろしの経験がありませんでした。正直、一月中旬の大雪にはびっくりしましたが、地域の方々に雪かきのノウハウを教えていただき、何とか人並みにこなせるようになりました。住居の雪下ろし初回の翌日は筋肉痛がひどかった事もありましたが…（汗）。

自分の住居だけでなく、地域で雪下ろしの人手が足りない時や、神社などの雪下ろしに声をかけていただき、着実に経験を積ませてもらっています！

続いてはわらび作りの見学&体験をさせていただきました。これは、地域の方がお祭りで使うわらびの製作を引き受けて冬の仕事にしているものです。今年は約270足の注文があったそうです。

しかし、冬は寒干し大根等の作業もあるため、現在、わらび作りをされている方は3、4人ほどだそうです。自分も今回わらび作りに参加させていただきましたが、売り物になるようなものを

作るにはまだまだ練習が必要そうです。冬の貴重な現金収入に繋がる仕事でもあるので、しっかりと覚えて今後継続して作業に参加していきたいと考えています！

このように、わらび粉生産以外の時期には、地域の方々の手が足りないところや、後継者の不足しているところ、で何とか「仕事」を作れないかと日々模索しております。

通年で安定した収入を得られる「就職口」とは違いますが、このような地域の「仕事」を多種多様に組み合わせるとつの生活スタイルを作っていくことも山間地域で生きていく術になり得るのではないのでしょうか。

また、直接の「仕事」ではありませんが、人生初の狩猟へも連れて行ってもらいました！かんじきを履いて雪山を歩くだけでも楽しかったのですが、地元の猟師さん達と4人で山に入り、一度の猟で8頭のイノシシを捕って来ました。しばらくはおいしいイノシシ肉に困る事はなさそうです（笑）

